

## 株式会社 IMAGICA TV 第 4 回番組審議委員会議事録

開催日： 2009 年 5 月 27 日（水） 10:30～12:00  
開催場所： 東京都港区白金台三丁目 19-1 株式会社 IMAGICA TV 内 会議室  
出席者：

放送番組審議委員	株式会社 IMAGICA TV
小倉 紀行	草野 雄次
植田 敬三	渡辺 浩
横田 栄三	野村 憲一
犬養 亜美	松田 健吾
石川 俊之	手柴 淳
小倉 茂	小瀬 朋子
	高野 佳彦

(以上、敬称略)

議題：「洋画★シネフィル・イマジカ」、「食と旅のフーディーズ TV」および「歌謡ポップスチャンネル」の番組内容、編成内容に関する審議

配布資料：上記各チャンネル 5 月および 6 月プログラムガイド  
各チャンネルメディアプロフィール

審議内容：

- ① 開会挨拶および最近の市場環境についてのご説明（草野雄次より）
- ② 各チャンネル編成担当より活動方針、編成方針の説明
- ③ 各チャンネルの番組、編成に関するご意見

### ◆『洋画★シネフィル・イマジカ』について

<編成より>

- ・ 昨年度は公開映画に関しては洋画の不振が明確化 ～ 興行収入ベスト 10 に洋画は 3 本という状況であり、また、DVD 販売もピークであった 2004 年対比で 3 割まで落ち込んでいる。
- ・ 地上波等でもこのところ洋画を見かける機会が減っていることを感じられていると思うが、実際に放送機会はどんどん減っていて、買い付けも減少していることが配給元と話しているとよく分かる。
- ・ ただし、有料放送市場においては、加入者数は劇的に増えてはいないが洋画 CH の視聴率が当社だけでなく他社も含めてこのところ全般的に良くなっている。
- ・ 地上波での放送機会の減少や、その影響で有料放送 ch が新作、大作の早期ウィンドウとなってきたことにより洋画を見たい層の視聴習慣として根付いてきたことが一因と思われる。
- ・ 反面、有料放送における洋画 ch はベーシック系だけでも 4ch、まさに戦国期とい

うべき状況にあり、これから生き延びていく為にこれまでのコンセプトである名画へのこだわり、ハリウッドに傾斜する他者との差別化としてのヨーロッパ映画の充実はもちろん、プラスアルファとして目玉としての大作系の取り込みによるライト層へのアピールをおこなっていく。

- この4月よりHD送出がはじまったことに伴い「サウンド・オブ・ミュージック」「アポロ13」などを取り上げている。
- HD化にあたっては、特にクラシック映画を高画質でご覧いただく、ということに特に意識していく。  
「黄金の7人」「続・黄金の7人」については、当社主導でHDマスターを制作、今後も全体に遅れているヨーロッパ映画のHD化への取り組みなどにも積極的に取り組むべく考えている。
- 4月からの特集として、ヒッチコック作品を2本×10ヶ月連続放映という取り組み

#### <ご意見>

- HD高画質マスター、というのは、TVに関係なく分かるものなのか？
  - HDマスターをHDそのまま見るためには、受信側の環境や送信側サービス環境の整備が必要。  
現状スカパーにおいてはHD放送開始は10月からなので、まだご家庭でHD画質をそのままお楽しみいただける環境ではない。  
ただ、HDマスターであることで、元の映像が非常にきれいになっており、従来の環境でも従来に比べてより綺麗な映像でお楽しみいただけると思う。
- アジア、中近東等の特集で、という試みもあるとうれしい。
  - どうしても視聴者の期待度がヨーロッパ映画、となるのでそれ中心になっているが、6月にはベトナム特集を企画しており、またアジア系は他のchではまず扱わないジャンルであり、良い作品も数あるので差別化という意味でも検討したい。
- 映画の編成時間を少し再検討してほしい。  
再放送とはいいいながら「家族の肖像」を午前中やお昼から見るにはヘビー。  
淀川長治解説についても朝から4本連続、という編成だったので・・・
  - 初回放送から時間が経ってしまうと現状はどうしても時間帯がメインから外れてしまう。初回放送は極力良い時間帯で、と心がけている。  
淀川長治ものは、当日が生誕100年の日であったという事情もあり・・・
- ヒッチコックについては、最近別のchでやっていなかったか？  
同様のことはどうしてもあり、たまたま別のchを見た視聴者にとっては単に「こっちでもやってる」となってしまうがち。特に10ヶ月連続、という力を入れた特集であることについて、特集の筋書きとでもいうべきアピールがあってよい。
- 視聴者から「もっとコメディを」という声が上がっていたが以前「モンティ・パイソン」を特集していたように、上等な大人が求めるようなユーモラスな映画を編成に盛り込んでほしい。
- リーフエンシュタール「原色の海」、これは真珠の一粒のような素晴らしい内容だった。社会に対する、環境に対するアピールでもある。  
この類の映画をもっと知らしめるような告知がほしい。  
どうしてもメイン作品の告知が多くなる中、webなどでどのようにこういう良質な作品を知らしめていけるか検討してほしい。

- この6月から「シネフィル」はバーチャルな3つのシアター、というコンセプトで編成に取り組んでいる
  - “シネフィル1”が大作、新作系、“2”はクラシック名画、“3”はシネフィルらしいオリジナル、という形でそれをベースにwebや告知もおこなっていく予定で、いままで埋もれがちだった“3”についても告知していくように模索している。
- ・ HPの中、映画タイトルの見易さ、昔放送した映画の検索など、もう少し工夫した方がよい。
  - 一部視聴者からも指摘をいただいているので改善を検討する。

◆ 『食と旅のフーディーズTV』について

<編成より>

- ・ 昨年10月よりチャンネル名称変更
- ・ 従来より主婦層を応援するコンセプトでレシピや食などの提供に取り組んできた。
- ・ 加えて男性やファミリーの取り込み、ご家庭でご覧いただく機会を持ってもらうことを目指して、特に食と親和性の高い「旅」要素を投入し、現在土日お昼から22時くらいまでのゾーンで集中的に「旅」コンテンツを放送している。
- ・ 本クールよりジェイミー・オリバーの「ジェイミーの家で・・・」を放送
  - 日本初放送であり、また、通常はこの手の番組は吹き替えだが、あえて字幕で放送している。

<ご意見>

- ・ 現在、「食」と「旅」のウェイト付けはどのようなバランスで考えられているか？
  - 旅コンテンツは放送時間が相対的に長い、「ウルルン」や「遠くへ行きたい」などオリジナルではなく地上波からの購入モノメインで、食コンテンツについては従来通りオリジナルが主、ということ踏まえ、力の入れ方をどう考えているか？
    - 地上波の焼き直しのようになってしまっていないか？
      - 時間占有、という考え方では概ね食6：旅4
        - 時間帯によってどういう方がTVの前にいるか、ということを考えながら編成をおこなった結果、ファミリー層は夜が中心、昼は主婦層向けに、ということで日中は「食」中心に、夜や土日は「旅」中心に、となっている。
        - 結果、働いている方などは家に帰った時間には旅コンテンツばかり見る、という偏りが出て本来食の専門chだったはずが・・・という類の問い合わせも視聴者から来ている。このあたりは時間帯やバランスの悩みでもある。
      - 働く女性が家に帰った時「デイリーキッチン」が見られない、などは、土日で吸収したり、ということになるが、どうしても2つ同時には追いつけられないものなので、このあたりは常に課題。
      - オリジナリティについても課題として認識している。
        - 「食」と「旅」は本来、旅の要素に食があり、食を求めて旅をする、といったようにボーダレスの関係で成立しうると考えており、旅要素についてのコンテンツもオリジナル制作を企画検討中である
  - ・ ジェイミーの字幕版については、通常は吹き替えということであるが自信を持ってよいと思う。映画で字幕は見慣れているし、本人の生の声が聴けたり、発音など単純に勉強になる、といった感覚。扱っている海外の食材についても同様。CS放送であればなじみのない食材などをネガティブに捉える必要はなく、むしろ日

頃目にしなかったものを教えてもらったという感覚で捉えていて問題ないと思う。後日その食材を見たときにそういえば TV でやっていた、という機会になればよい。

- ・ 「暮らしの手帖」のコラボ企画があったが、他メディアとの協業については、今後も同様のケースがあると思うが、その番組で紹介したレシピが HP に載っておらず、「詳しくは雑誌を購入して」、というアプローチになっているのは疑問。今はもう情報化時代であるのだから仮に雑誌社側からの声でそのようになっているのであればむしろ放送し、web で紹介することで更に雑誌が売れる、と思うべき。
- ・ また、昭和 30 年代～40 年代の味の再現でオムレツを作っているのに使っているフライパンがテフロン加工のものだった。そういう細かいところへのこだわり、ディテールが楽しいのにこんなところで興ざめしてしまうので配慮して欲しい。
- ・ 通販枠で全く同じ内容が 3 回続けて流れていた。そのあたりの扱いにも心遣いをしてほしい。
- ・ あらためて海外の料理番組の、日本流と違うラフさが楽しいということを感じた。あれが本来の人間が生きるための作業、という感じ。
- ・ 「ためしてガッテン」が、6～7話に 1 回くらいの割合で料理に関する内容で、じっくり時間をかけて料理の根源の味の引き出し方とかおいしさのような、テクニク+αの教養や楽しさを教えてくれる。そういったことも参考に番組作りをしてくれると更に深みが出ると思う。
- ・ 特に CS 放送については、視聴者に外国人もいる、また、番組を輸出できるように、という視点もあってよいのでは。昨今世界も健康志向なので、和食とか、またはそれにとらわれないジャンルを超えたところでのレシピなど、開発できるといいのでは。

#### ◆ 『歌謡ポップスチャンネル』について

<編成より>

- ・ 現在、編成の傾向としては演歌、歌謡曲で約 60%、いわゆるなつかし系が 15%。
- ・ 最近特に CATV 局からの引き合いが強くなっている。とある大阪の局で CH が打ち切りになった際、かつてないほどの抗議？の電話がコールセンターに届き、視聴者の皆さんが一生懸命みていただいていたことをあらためて認知した。
- ・ 「R65」の最終回には、加藤茶さんに出演いただき、音楽ネタのトークが非常に面白くいい出来だった。普段 CS には出ていただけない方でもあり、貴重なアーカイブとなった。
- ・ 前回は指摘いただいた番組初回放送の曜日/時間がばらばらだった件はご指摘を期に、毎週●曜日の時間固定、という形にあらためた。
- ・ R65、なごら TV などのオリジナルコンテンツが BS への番組販売が成立
- ・ 4 月からの「ときめき歌謡曲」はテレビ埼玉との共同製作。 HD 収録を前提にしたことと、地上波との共同製作ということもあり、CS の全国放送と組み合わせると媒体力が上がり、ゲストのブッキングが非常に楽。
- ・ 美川憲一とコロッセのライブ、これは収録、放送だけでなく DVD 化などを含め広い著作権を取得、今後展開を予定している。
- ・ 「えんか e ジャン」の契約がはじめて音楽事業者協会から IP 放送がはじめて OK になった。これは、ある意味画期的なことで、今後の展開に期待が持てる。
- ・ 「加山雄三のスペシャルワールド」については、やはり当初 CS としては非常にハードルが高かったが、HD 収録で 2 年間独占放送権を取得できた。

- ・ 「富澤一誠のミュージックギャラリー」が自社製作で7月よりスタート。
- ・ 今後、放送はもちろん大事だが、自主制作を通じてコンテンツホルダーとしての存在感を高めていきたいと考えている。

<ご意見>

- ・ 「Sound for Memories」の出演者は、今見る方が若い頃より味があって非常に楽しく見ることが出来た。あの頃のミュージシャンは皆そういう感じ。
  - このユニットは残念ながら今年で解散してしまう。
    - また新たなユニットの結成の動きがあり、企画を進めている
    - 昨年も制作した「高田渡生誕祭」の09年版も現在編集中で、いい作品に仕上がると思う。
- ・ 「Sound for Memories」は名曲アルバムのご当地演歌版といった趣きで、本人の歌だけをじっくり聴く作りになっている。
- ・ 「●●の歌謡曲」「●●の音楽館」のような似たタイトルがどうしても増えていってしまう感じがする。色んな要素を入れることを総称するとそうになってしまうかもしれないのだが、これが何年分かアーカイブが溜まっていくとその時に各々の特長が見えなくなってしまうのでは。
  - 自社のものにはできるだけそうしないようにしているが、購入番組に多い。その方の司会、組み立てでやっている、ということがあるので、コントロールが難しい面もある。
- ・ 「かずさと節子の歌謡音楽館」の中、演歌歌手は普段は着物姿が多く、とてもきれいだ、普段着姿や洋服姿を見たときにいつもと違うスタイルやそのギャップが非常に面白く見られた
- ・ 「スペシャルワールド」のゲスト（第1回は大友直人さん、千住明さん）はこちらでブックイングされているのか？
  - 加山さん側の人選。ご自宅？で収録されている様子でもあり、また一緒にコンサートをされていることもあり。第2回は清水アキラさん、第3回は日野皓正さん。
- ・ プログラムガイドが3ページ見開きになって、文字も大きくなり非常に見やすくなった。視聴者の最初の入り口になるので、大事にすべき。見開く部分が1cm短くなって開きやすい、といった細かい配慮があり、これも大変良い。
- ・ ステーションIDも新しくなって、ファミリーも演歌も、老若男女みな一緒、というメッセージが特に言葉もなく非常によくわかる。
  - もっとチャンネル名をアピールしたい、という点、これはずっと課題。

④ 次回審議会は11月頃の開催の旨、確認する。

以 上